

『茨城新聞』2016年(平成28年)2月21日

医療従事者の役割探る

水戸で来月5日

住民交え対話集会

医療従事者と地域住民が連携し、住みよい地域づくりを。医療従事者と地域住民の対話集会「みと・あかつかカンファレンス」が3月5日、水戸市河和田町の市桜川市民センターで開かれる。看護師をはじめ、医療や介護、保健、福祉の分野に携わる専門職らが参加。住民と膝を交えて対話することで、地域のつながりを再確認し、地域の課題解決につなげたいと考えた。

対話集会は、県看護協会(相川三保子会長)主催。日本看護協会の「看護職連携構築モデル事業」に採択された事業の一環で、JR常磐線赤塚駅を中心に半径3キロ圏内を「みと・あかつか」地区として着目し、医療従事者同士の連携を目的に、これまで意見交換会やシンポジウムなどを行ってきた。

対話集会は、事業の集大成。同協会水戸地区理事の中西京子さんは「団塊の世代が75歳以上となり、日本人の4人に1人が高齢者となる。2025年問題、などの課題が迫っている。地域の医療人一人一人が連携し、地域住民と一体感を持つていくことが欠かせない」と力を込める。

対話集会では、原毅水戸医師会長らが出席し、基調講演を行うほか、住民らと地域を元気にするために、医療従事者に何を期待するのか、何ができるのかを語り合う。午後1時から。参加無料。事前申し込みが必要で定員120人になり次第、締め切る。問い合わせは、みと・あかつかカンファレンス事務局(水府病院内) ☎029(309)5000

(平野有紀)

『茨城新聞』2015年(平成27年)7月30日

「看護力」強化へ

部長級が初会合

県看護協会水戸地区

県看護協会(相川三保子会長)は、日本看護協会の「看護職連携構築モデル事業」に同協会水戸地区が採択されたのを受け、同地区内の総合病院の看護部長などを集めた会議を29日、水戸市内で開き、事業内容について検討を始めた。

同事業は、小規模のクリニックや開業医なども含めた看護師同士の「看看連携」を図り、地域の看護力を強化するのが狙い。期間は8月から来年3月までの8カ月間。全国20地区が採択され、県内ではほかに取手・竜ヶ崎地区が選ばれた。

水戸地区では、看護部長級が一堂に会する会議は初めて。同会議を母体として、地区内の病院の看護責任者などによる「水戸地区看護部長ネットワーク」を発足し、定例化していくことを決めた。

事業では、シンポジウムや研修会などの開催を通じて、看護師同士の連携や看護人材の育成、地域の課題把握に取り組む。相川会長は「病院完結型で看護師同士の連携が十分でなかった。まずは顔の見える交流を進めて生きたい」と話した。